



- 日時:2008年4月14日
- 場所:ヴィアール大阪
- 参加者合計人数:80人

地区米山奨学委員会 委員 **稲邑 清也**
(千里RC)

第2660地区奨学生全40名の内、今日は新奨学生者29名とカウンセラー、役員の皆さんが出席しました。

まず、地区米山奨学委員会石山登委員の司会で地区役員の紹介があり、新谷秀一Gの開会の言葉がありました。岡田義昭委員長はご病気のためご欠席の報告があり、早い回復を祈られました。次いでテーブル上で奨学生とカウンセラーの相互の自己紹介があり、その後、次年度地区米山奨学委員長の笠原隆之助氏から米山奨学制度について、また新しいカウンセラーの役目についての説明がありました。同副委員長の村橋義晃氏のパワーポイント上映でハンドブックに沿っての奨学生へのオリエンテーションが行なわれました。特にこの奨学制度の特徴である世話ロータリークラブや、カウンセラー制度について説明がありました。月一回の例会の出席、10月の米山月間には卓話をして欲しいこと、ロータリアンとの交流に理解を求められました。今年度の全国の奨学

生は813名、これまで14,500名が巣立っていった事の報告がありました。奨学金終了後も世話クラブの人々との連絡を絶やさないようにとのお願いがありました。次いでカウンセラーからの質疑応答、特にクラブの例会の曜日と大学の授業の時間割の曜日との重複の問題の質問がありました。何かの解決方法を見出して欲しい、例えば月一回だけ担当教官の理解を得る工夫をして頂きたい旨の回答がありました。そして新奨学生からの確約書の提出がありました。

懇親会は横山守雄GEが乾杯の後、食事に入り、新奨学生の出席者全員から3分スピーチがありました。諸君はかなり流暢な日本語で和気あいあいと自己紹介や研究分野の紹介をしました。カウンセラーの方々とのテーブル上での会話も弾んでいたようでした。次いで関西米山学友会会長の林小微氏の学友会からの説明とお願いがあり、最後に次年度地区米山奨学委員長の笠原隆之助氏から閉会の言葉があり、閉会しました。

